

○議長（茅沼隆文）

それでは引き続き、一般質問を再開いたします。

7番、下山千津子議員、どうぞ。

○7番（下山千津子）

7番議員、下山千津子でございます。通告に従いまして、開成町の現状と将来像を問う。の質問をさせていただきます。

開成町は、町域を北部、中部、南部と三つの異なる特徴を持った町づくりで、人口増を実現いたしました。

しかし、平成27年版の「統計かいせい」によりますと0歳から14歳、15歳から64歳の人口は若干減少傾向をたどっております。特に平成26年から27年の0歳から4歳の人口が819人から802人に減少しております。また、若年層の人口の地域間格差が拡大しており、平成29年4月の入学予定者数は、開成小学校が2クラスであるのに対し開成南小学校は、4クラスとなっております。

これからの町政運営は、町全体に子どもを産み育てる支援策を充実させることにより、若い世代の定着を図るとともに、地域間格差の是正のために開成小学校学区内である町北部・中部地域を対象にした教育環境の充実や若い世代の定住促進策を展開すべきと考え、次の質問をいたします。

①子育て環境の充実に向けた現状と将来像は。

②開成小学校のプールの早期建設は、教育環境の南北格差是正の柱と考えるが町長の所見を伺う。

③北部・中部地域に若い世代が興味を示す定住促進策についての具体策は。

④県立足柄上病院の産科体制を復活させて、足柄地域の子どもを産む環境の充実が喫緊の課題と考えるが町長の所見を伺います。

以上、壇上からの質問といたします。よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、下山議員の御質問にお答えをいたします。

1点目の子育て環境の充実に向けた現状と将来像についてお答えをいたします。

全国的に急速な少子高齢化の進展、人口減少が進行する中、開成町の人口は現在もなお増加している状況にあります。

しかし、その一方で、年少人口は平成25年度2,662人、平成26年度2,653人、平成27年度2,634人とこのところ減少傾向でありましたが、子育て環境や子育て支援サービスの充実・強化等の取り組みによる社会増を要因として、平成28年度には2,677人増加に転じ、平成25年度の年少人口を上回る成果を得ることができました。

現況における、子育て環境充実への取り組みといたしまして、平成28年度当初予

算を「未来につなぐ人づくり・絆づくり予算」として、子どもたちの健やかな成長を支えることを重点に掲げ、子育て環境の充実においては、開成町駅前子育て支援センターの開設や保育所待機児童ゼロを達成するための民間保育所の開設支援、魅力ある教育の推進としては、子どもたちの教育活動や体験活動の充実を図る土曜学校の創設や、子どもたちが思いのまま自ら遊びを生み出すことを目指したプレイパーク事業等を進めております。

また、後日、審議をいただく平成29年度当初予算におきましても、新規の取り組みとして妊娠・出産・子育てのワンストップ相談窓口「母子健康包括支援センター」の開設をはじめとして、子どもイベントの開催、赤ちゃんの駅事業、ブックスタート事業の実施等、きめ細かな取り組みを新たにスタートさせ、子育て支援のさらなる充実を図っていく予定としております。

今後、平成27年度に策定した「開成町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、子どもの元気な声が響く活気あるまちであり続けるために、妊娠から育児まで切れ目のない支援として、妊娠・出産を支える環境づくり等を進め、地域活力を生かして子育てを応援する町の実現を目指していききたいと思っております。

あわせて、次代の社会を担う子どもたち、これからの社会において必要となる「生きる力」を身に付けることができるように、開成町ならではの魅力ある教育を推進してまいります。

次に、2点目の開成小学校のプールの早期建設は、教育環境の南北格差の柱と考えるが町長の所見を伺う、についてお答えします。

初めに、開成小学校と開成南小学校で教育環境に格差があるとは考えておりません。開成小学校では平成23年度から平成25年度までの3年間で大規模改修事業を既に行い、空調設備の設置や開放的な図書ルームの増築を行うとともに、余裕教室については多目的な空間として有効に活用するなど、教育環境の充実を図っております。

御指摘の平成29年度の開成小学校のプール授業については、南足柄市の協力をいただき、南足柄市体育センター温水プールを借用して実施する予定であります。

温水プールでの授業は、天候や気温に左右されず、実施できる利点があるほか、水温が安定しているため、水が苦手な子どもでも水に親しみやすくなるなど、長時間の水泳指導に適していると考えております。

平成29年度の開成小学校のプール事業については、開成小学校PTA、保護者への説明にも努め、一定の御理解をいただいております。このようなことも含めましても、町では、学校にプールがあるなしで、教育内容に違いが出ないように努めております。

3点目の北部・中部地域に若い世代が興味を示す定住促進策についての具体策は、についてお答えをいたします。

近隣自治体において人口減少が進行する中、開成町は豊かな自然環境と適度な利便性を兼ね備え、良好な生活環境が調和した町として、定住人口の増加傾向が続いております。今後も町制施行60周年を契機に掲げた「田舎モダン」をキャッチフレーズ

に、町の雰囲気を感じて、愛着を持っていただき、誇りと憧れを持って多くの方が集まってくるような魅力あるまちづくりを進めていきたいと考えております。

これまでのまちづくりとして、北部地域においては農地保全と交流人口の拡大、中部地域においては庁舎建設及び周辺整備による住環境の整備、南部地域においては定住促進・企業誘致等を中心に各地域の特長を生かした施策に取り組んできました。今後も、南部地域の基盤整備による人口流入を一つのモデルとして、中部地域においても環境整備を進めることで民間の再開発等をさらに誘導し、全体として定住促進のインパクトにつなげていきたいと考えております。

また、開成町が将来にわたって活力に満ちあふれた町であり続けるためには、人口年齢構成バランスを意識した定住人口の拡大や定住・移住のきっかけとなる交流人口の拡大を重視していく必要があります。

高齢化が急激に進む中、人口の年齢構成バランスを良好に保つためには、年少人口・生産年齢人口の増加が必要不可欠であることから、初めの御質問にお答えしたとおり、子育て支援を充実させ、子育て世代をターゲットにした定住促進に今後も努めていきたいと思っております。

さらに、町外から人を呼び込むことにより地域活性化を図るため、魅力ある観光・交流拠点づくりを推進し、交流人口の拡大につなげていきたいと考えております。

具体的な施策としては、子育て世代を主なターゲットとした定住プロモーションの展開やSNS等の媒体を活用した情報発信、子ども向けイベントの開催、町内で働く若者の定住・結婚支援などに取り組んでいきます。

また、魅力ある観光・交流拠点づくりの推進を図るため、あしがり郷拠点整備の推進、地域資源を生かした観光事業・都市間交流の推進、地域の連携体制の構築等についても、これまで同様に取り組んでいきたいと思っております。

4点目の質問、県立足柄上病院の産科体制を復活させて、足柄地域の子どもを産む環境の充実が喫緊の課題と考えるが町長の所見を伺う。についてお答えをいたします。

足柄上病院は、平成17年度に産科医の不足から分娩予約を一時休止し、その後も常勤医の確保が困難なことから、現在でも十分な産科の体制を築けていない状況があります。

平成23年度には、原則として正常なお産は助産師が管理し、リスクが生じた場合に産科医が医療対応する院内助産となりました。このことから対応が可能な人数は、上限、月30人の予約定員制となっており、これまでの最大取扱件数の半数以下となっている状況であります。

また、対応が難しいケースについては、他の医療機関に紹介を行っております。

さらに、産科に限らず、小児科や婦人科においても、医師の確保困難や、県からの運営費負担金の減により、今後の安定的な運営が憂慮される状況にあります。

私としましても、子ども子育て環境の充実をうたっている町という観点からも、また、都市部のように病院を選ぶことが困難な地域であるという状況からも、安心して子どもを産み育てられる地域の基幹病院として、足柄上病院の医療体制の充実を図っ

てもらわなければならないと考えております。

また、この件は開成町だけの問題ではなく、少子高齢化が顕著であるこの地域全体の安全・安心の確保や活性化を図っていく上でどうしても解決しなければならない大きな課題と認識をしております。

既に1市5町の首長の間でも協議事項の一つとなっており、平成29年度への県要望でも足柄上病院の医療体制の充実強化について要望を行っているところであります。今後とも各市町、各首長が連携し、知事や県議会などに対し、産科の充実にとどまらず、足柄上病院全体の医療体制の充実が図られるよう、あらゆる機会を捉えて要望してまいります。私としましても町民の希望、要望を踏まえ、しっかりと発言していく所存でありますので、よろしくお願いいたします。

以上であります。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ただいま町長から答弁がございましたが、何点か再質問をしたいと思います。

最初に平成28年度の年少人口は増えていて、大変喜ばしいことですが、平成25年から平成27年の3年間の年少人口は減ってございます。なぜ減ったのか。その原因をどのようにお考えか。また、平成28年中はなぜ増えたのか。これらの状況をどのように分析されていますか。お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、議員の御質問にお答えさせていただきたいと思います。

まず、年少人口の増減の要因でございますけれども、こちらにつきましては、0歳から14歳までの転入者数と転出者数の差異、いわゆる社会増減というものでございますけれども、これと出生数と、14歳から15歳になる方の数の差異、いわゆる自然増減、この2種類がございます。こちらにつきましては、毎年1月1日の各年齢別の人口、これを推計してございます、神奈川県の子どもの人口統計調査、これに基づいて、我々としては、様々な要因を分析しているということでございます。

議員御指摘のとおり、年少人口につきましては、平成25年中、こちらにつきましてはマイナス8、平成26年中、こちらはマイナス5人、平成27年中につきましてはマイナス36人となってございましたけれども、平成28年中については、プラス49人となっております。この増減の要因につきましては、先程申しあげました社会増減、自然増減の分析をしておりますけれども、各年とも、社会増減につきましてはプラスとなっているという状況がございます。

ただ、一方で自然増減につきましては、マイナスになってございます。これまでまちづくりの成果をベースに子育て世代の定住促進、これを進めてまいりましたけれども、この結果、人口減少が進む神奈川県西地域において、唯一人口が増加していると

いう状況になってございます。

こちらにつきましては、特に30歳代と0歳から9歳のお子さん、こちらの親子の転入が多いということが開成町の傾向としてございます。年少人口の社会増というものについては、このような傾向から起こっていると分析をしているところでございます。

また、出生数の減少傾向につきましては、自然減が進んでいるという状況がございますので、今後、様々な子育て施策を取り組むことで、こちらの改善を図っていききたいと考えてございます。

年少人口が減少に転じる前の平成24年度中につきましては、パレットガーデン4番館の入居、また、年少人口が再び増加に転じた平成28年につきましては、みなみ地区への本格的な定住が進んだということで、例年以上に年少人口の転入者が多かったこと。これが年少人口の増加につながったと分析をしています。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

詳細にわたって、御答弁いただきまして、ありがとうございます。

開成町の第五次総合計画では、平成36年度の人口推計を1万9,300人としております。この推計の中では、合計特殊出生率は2.0としております。平成27年度の国勢調査に基づく合計特殊出生率は1.6であります。町内の人口は自治会別人口のデータを拝見いたしますと増えているのは、特にみなみ地区を含む南部地域であり、一方、減っているのは、金井島農振地域ですけれども、あと榎本でございます。増えているところは良いですが、減っているところに対してどのような人口増に向けた対策を講じていく必要があるのかを考えるべきかと思えます。

人口推計を比較しますと、現時点の平成28年度は、1万7,300人くらいで、平成36年度は1万9,300人と見込まれて、あと8年で2,000人増やさなければなりません。単純に計算しますと、1年で250人ずつ増えませんか、平成36年度には、1万9,300人にはなりません。

そこで質問ですが、地域別人口増加対策及び合計特殊出生率を1.6から2.0にするために、町はどのような取り組みをされるか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、お答えをさせていただきたいと思えます。まず、総合計画ということでお話をいただきまして、平成36年度まで1万9,300人ということで、昨年、人口ビジョンというものを策定させていただいておりまして、改めて人口推計等を分析を含めてさせていただいているということがございまして、こちらの中で、平成72年の開成町の総人口を1万8,900人、こちらを維持していこうという将来展望を

立ててございまして、まずは2020年の人口を1万9,100人、こちらの達成を目指していこうということで、様々な施策等を行っているということで、こちらの考え方でちょっとお話をさせていただくことは、御容赦いただければと思います。申しわけございません。

地域別の人口増加策ということでございしますが、特に町長の答弁でも申しあげましたとおり、地域に応じた人口増加対策というものは、特段持つてはございません。町全体の中で定住人口、交流人口等の拡大を図っていくという考え方は持っているところでございます。

人口増の考え方として、長期的に、先程申しましたとおり、出生率を引きあげる等の自然増の動きはしていくということは必要だとは思っておりますけれども、こちらにも急激な回復といいますか、そういうものをしていくということは、なかなか難しいのだと思いますので、町の元気を維持するためということで、出生率の向上とあわせて、社会増の対策を図っていきたいと考えてございまして、その上でこちらも総合戦略に掲げさせていただいております、定住、交流人口の拡大を図る施策ということで、定住プロモーションの展開ですとか、子育て世代を主なターゲットにした、定住促進等の動きを取り組みとしていきたいと考えてございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

副町長。

○副町長（小澤 均）

今、人口の動向の説明を、課長から説明をしましたがけれども、人口が増加しているというのは、社会増が支えているというのが、今の開成町の現状ですから、とはいっても、26年に南部地区が竣工して、3年目を迎えるわけですがけれども、現在の建物の立地そのものが、当初よりはスピード感のある中で立地が進んできているんですけども、とはいっても、あまり時間が経ってしまうと、人が張りついていただく、住み着いていただくというタイミングを逸してしまうと。こういうことは時期的なことがとても重要なのかなと考えます。

先般も、土地の所有者である小田急電鉄と打ち合わせをしたときには、やはり官民連携で、29年、30年、この2カ年の中で集中的に、そういう定住促進の動きをしていこうという話し合いをしましたので、また、そういうことを含めて、まずは基盤整備をやったみなみ地区の建物の立地を促しながら、それを地域のインパクトとしていくと。そういう流れの中で定住促進をしていきたいと思います。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今の御説明で、行政サイドの取り組みは理解をしたところでございますが、地域別人口増加は別に持っていないというところでございました。現に開成小学校が2クラ

ス、南小学校が4クラスという今現状が出ておりますので、喫緊に中部、北部の定住促進策を考えなければならない時期にきているんじゃないかなと思ってございます。

次の質問をさせていただきます。

プレイパーク事業についてお聞きいたしますが、何回か見学、あるいは参加させていただきまして、赤ちゃんから大勢の子どもたち、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんたちが、同じ空間を元気に楽しく共有している光景は、参加されている方々を心豊かにさせてくれるものと感じました。運営された、子どもゆめパークをつくる会の皆さんの御努力に敬意を表したいと思います。久しくあのような光景に触れることがございませんでしたので、本当に感謝しました。

このプレイパークを主体的に運営されている、子どもゆめパークをつくる会のメンバーは、現状男性1人、女性4人で、年齢は20歳から50歳だそうで、そこに大学生もいられ、卒業論文に開成町のプレイパークを取りあげてくれたそうでございます。この広がり、開成町の魅力を発信し、若い子育て世代にアピールする絶好のテーマと思いました。この事業を今後どのように進められるか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

子ども・子育て支援室長。

○子ども・子育て支援室長（中戸川進二）

プレイパークの今後の展望ということでお答えをさせていただきます。まず、開成町でのプレイパークの取り組みにつきましては、平成27年度に2回、平成28年度に3回ということで、実際に実施をしてございます。この実施の目的につきましては、まず、開成町の将来展望として、プレイパークを定着させていきたいと、それを実現するために、まずどのような課題があるのか。それから、あわせて人材を育成していく必要があるという観点の中で、まずは調査研究の一環として、実施しているといった状況でございます。

したがって、今現在、こういった形で展開をしていくということは、今現在では決まっておりますが、こういった実証の結果を踏まえながら、今後、その辺の方向性を定めていければなと思っております。

なお、こういったことを通じながら、開成町に住んでいる人の満足度を高めるとともに、議員がおっしゃったように、開成町の魅力を発信できるような事業にできればと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ぜひ、この活動を短期で終わらせることがないように、強力な行政支援をお願いしたいところでございます。

若い大学生とかもいらっちゃって、活動をなさっていますが、関係者にお聞きしますと、このプレイパークに参加した子どもたちは、必ず大きくなっても、プレイパークにかかわってくれるという事例があるそうですので、開成町でも、この取り組みを

継続的に行っていければ、そういう若い人たちの定住促進策にもつながるんじゃないかなと思います。

プレイパークというのは、本当に自然を相手に行っている事業ですので、中部、北部にも空き家が出たときとか、そういう部分での定住促進策につながるんじゃないかと私は考えました。

新規にワンストップ相談窓口を開設されるようでございますが、それを担当する人の採用する基準については、特にスキルだけでなく、人柄などをどのように評価されるか、お聞きいたします。母子包括支援センターでございます。

○議長（茅沼隆文）

保険健康課長。

○保険健康課長（亀井知之）

お答えします。母子包括支援センターの話ですね。ワンストップ窓口と言いますか、母子包括支援センターにつきましては、現在、準備作業ということで、既に非常勤の保健師、それと助産師ですね。入っていただいております。準備期間と申しますが、別にハード的な準備をするということではなくて、やはり3カ月ぐらいは町の乳幼児の健診の状況、それから、お子様の状況、母親の状況等を把握してもらうという、そういう必要があると思ひまして、一応時間を置いていると。正式には、4月を目途にしておりますが、多少ずれるかもしれませんけれども、春から開始をしたいと思ひてございます。

担当者につきましては、既に研修が始まっておりますので、採用はその方、そのまま採用されるということになると思ひますけれども、この方につきましては、既に開成町で今まで非常勤で数年仕事を行っていた方でございます。また、保健師、あるいは助産師としての経験も豊富でございますので、スキルの的には十分な方だと思ひておりますので、その方を引き続き雇用して、センターの開設につなげていきたい、このように考えてございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ぜひ、よろしくお願いしたいと思います。

次に2問目の再質問をさせていただきます。ただいま、開成小学校と開成南小学校で格差があるとは考えていないとの答弁があり、また、様々な答弁を述べられましたが、多くの保護者の皆さんの声でも、私がかつて通った開成小学校と新築の開成南小学校と比べてかわりがないと言われるのは無理があると感じております。平成22年度の開成南小学校の開校時に、開成小学校の学区から開成南小学校の学区に住所を移した方があると聞いておりますし、私の地域からもございました。この現象をどう認識されているのか、子どもの心に不公平感を生じさせるとしましたら、それこそ格差を生じさせているのではないのでしょうか。教育は、未来を支える土台と考えておりま



す。開成町の未来を担っていただく人材と考えております。今、この時点において、開成小学校の生徒でしたら、町長はどう感じられますか。

そこで具体的にお尋ねしますが、格差がないと言われますのは、開成小学校と開成南小学校の保護者から同じ内容で聞いたアンケートがあるためなののでしょうか。または別の観点からの科学的合理性を持って判断されたのでございましょうか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

二つの学校の格差という捉え方もあると思うのですが、物理的な建物の中で、例えば、運動場、広さが全然違います。それを違うからといって、格差と捉えるかということです。私、実際、運動会両方行っております。開成小学校の運動会は、グラウンド確かに狭いです。ですけれども、それなりに密着感があって、すごく和やかな感じで親しみのある運動会ができているなど。開成南小学校へ行きますと、本当にグラウンドが広い。そうすると、どうしても、保護者も生徒もそうなのですから、分散をされていまして、一体感というのは、開成小学校とは違うもの。広いなら広いなりのものが当然ありますけれども、そういう違いというのは確かにあります。それは違いがあって、私は良いのかなと。もともと建物の箱、運動場も含めて、それは全部全く同じではありませんので、その違いの中で、それを生かしながらやっていくというのは、すごく大事なことで、今、開成小学校の運動会の例を出しましたけれども、開成小学校は開成小学校なりの運動会の中ですばらしい運動会ができている。それぞれの良さが生かされた中でやられていると私は認識しておりますので、そういう意味の教育の格差はないと思っております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

町長が言われるのも理解はします。教育環境で明らかに、新しい開成南小学校と開成小学校では、必然的に違うのは明らかと考えております。

そんな中で、開成小学校の魅力は、運動会などに参加されて、コンパクトで良い面があるとおっしゃいましたが、ほかには開成小学校の魅力はどんなところにあると思いますか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育委員会事務局参事。

○教育委員会事務局参事（加藤順一）

開成小学校の魅力、開成南小学校の魅力、これはそれぞれに持っているところでございまして、どちらかと言いますと、下山議員のお尋ねの部分としては、開成小学校の、よりこちらが良いよといった部分はどこにあるかという御質問かと思うのですが、例えば、現実的には、開成小学校の学校図書の蔵書数は、南小学校を上回っ

ているとか、そういった一つひとつ挙げていけばあろうかと思います。ただ、それも現実的には、どれだけの図書を利用されているか。図書利用の指導をどのようにされているかということで、その蔵書数そのものが、教育そのものにつながるとは思っておりませんので、それぞれの学校で先生の資質、それがどちらも素晴らしい先生が来て、おいでいただいていると思っておりますし、そういったトータルの中でいえば、あえてのお尋ねとは思うのですけれども、引き続きどちらも教育環境としては、十分なものが整っていると御理解いただければありがたいと考えます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

関係者は格差はないとおっしゃっておりますので、それ以上お聞きいたしません、開成小学校のプールの件は、議会報告会でも、若い母親から数カ所の会場で心配される意見がありました。

まだ、町民プールの解体工事が始まっていないので、御存知ない町民が多いと思いますが、工事が始まれば、町民プールや開成小学校のプールがどうなるかの話題が再燃してくることは、想像に難くありません。新庁舎建設との絡みで、さらに慎重な対応を望みたいところでございます。

教育施設の充実に格差をなくすためにも、それこそ温水プールを開成小学校の学区に建設されれば、人を引き付け、人口増にもつながるのではないかと期待している町民が多いと思っております。「教育の町、かいせい」にふさわしい対応を期待するところですが、町長の判断はいかがですか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

庁舎建設にあわせて、今ある町民プールが廃止という方向性で、まちづくり集会の中でも、町民の皆さんにはお話をさせていただきました。そういった一方で、開成小学校の子どもたちが町民プールを使って、夏、授業としてやっていくというのが現実であります。その代替ではありませんけれども、プールがなくなった場合、その不安というものも保護者の方もあると思います。そういう意味で、南足柄の温水プールを貸していただいてやってみるという方向性が決まりました。温水プールの良さというものを、それぞれ多くメリットとして挙げられておりますので、まずはそこでやってみると、そういう方向性できちんとPTAの皆さんをはじめ、保護者の皆さんにはお話をさせていただいておりますので、一般の町民の皆さんから見る視点と、また学校に通っているお子さんを持っている保護者の皆さんと、またちょっと視点が違う部分があるのかなと思いますけれども、基本的には、子どもたちの関係でありますので、保護者の皆さんに、御理解をいただきながら、南足柄市の温水プールの中で、授業としてやってみたいと思っております。

そういった中で、今、下山議員が言われたのは、学校のプールではなくて、小学校

の近くに町が温水プールをつくったという提案だとは思いますが、たまたま民間のところで大きな敷地が空いている部分があって、その辺も私も結構気にして、民間プールの誘致ができないかという調査は、これは個別な話で、町ではなくてさせていただいた中で、1件、問い合わせもありましたけれども、やはりこの県西地域の中で、採算に合う温水プールも含めて、プール事業をやってくれる業者が見つからなかったということで、民間誘致は少し難しいなという話の中で今思っております。町がこれから温水プールをやっていくかというのは、また別の話であると。改めてそれは町民の健康のために、子どもたちの格差の話だけではなくてプールとして必要かどうか、これは後期計画の中で少し検討する部分があるのかなと思っております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

町長も御努力されたようで理解をいたしました。

次に、人口年齢構成バランスを意識した、定住人口の拡大や定住・移住のきっかけとなる交流人口の拡大を重視していくと答弁がありました。具体的に町はどんな事業展開を新たにお考えで、目標はどのように設置、制定されておりますか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、お答えをさせていただきます。昨年、こちらも策定をさせていただいております、「開成町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいてのお答えになりますけれども、交流人口の拡大ということでの御質問でございます。こちらにつきましては、定住促進と並行いたしまして、町外から人を呼び込むことによりまして、地域の活性化を図っていくということを目的といたしまして、魅力ある観光、交流拠点づくりの推進をしていきたいと考えてございます。

具体的には、年間を通じて観光客の誘致を図ることから、地域資源を活用したメニューの発掘を進めることですか、瀬戸屋敷を核とした魅力ある観光、交流拠点づくりを推進するということで、瀬戸屋敷周辺整備、こちらを進めていくということで、目標といたしまして、瀬戸屋敷の来園者数を、平成26年度実績とほぼ倍増を37年度までに目指していくということを目指して掲げてございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

先程の温水プールの件ですが、町長も努力されたと。それで一生懸命町長が答弁する、それをお聞きしていましたが、頭が真っ白になってしまって、言葉が思い浮かんでこなかったもので、失礼いたしました。

今年度1年温水プールに行かれるようですけれども、1年経った後、保護者や住民、町民が納得するような答えを出していただきたいと思います。期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

次に御答弁の中に、具体的な施策として定住促進、プロモーションとか、SNSなどの媒体を活用した情報発信、こういう御答弁がございましたが、もう少し詳しく御説明いただければありがたいです。内容ですね。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

下山議員が頭が真っ白になってしまって、その後なかったので、言えなかった部分を言わせていただきますけれども、町が今開成小学校の部分を南足柄市から借りて、温水プールで授業をやっていただくと。その中の良さははっきりと持っていけるように、これは努力させていただきたいと思うのですけれども、町が温水プールを将来つくるという方向は今考えておりませんので、その辺はすみません。先程、後期計画の中でという話もさせていただきますけれども、誘致の部分は一生懸命頑張ったんだけれども、なかなかできませんでしたが、それをかわりに行政が温水プールをつくってという考えは今のところ持っておりません。できるだけ、子どもたちの教育環境や良さを、ソフトな部分で強化しながら、サービスを提供していきたいと思っています。曖昧な言い方をしてしまったので、誤解がないように伝えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、SNSの関係の御質問にお答えをさせていただきます。こちらにつきましては、子育て世代を主なターゲットとして、定住促進を進めていくということの中の取り組みといたしまして、定住プロモーションの展開ですとか、今言われたSNSを活用した情報発信というものがあるということの中で、特に今、町でもフェイスブック、ツイッター等のSNSを活用して、情報発信をさせていただいておりますし、また、あじさいちゃんですとか、かいせいびより等を使って、様々なフェイスブック等の活用で、情報を発信させていただいているという状況がございますので、若年層に向けて、今後さらに町の魅力を伝えていく一つ的手段として、今後一層活用を図っていきたくて考えてございますし、また、若年層の方が使用するSNSとして、今、Instagramがほとんど活用されているということも伺っておりますので、こちらからの情報発信というものについても、今後、実現を目指していきたいと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

それでは、4問目の再質問をさせていただきます。安心して妊娠・出産、育てる環境を整えて、開成町に若い世代に移り住んでほしいという府川町長の大方針がある中で、足柄上病院の産科の空洞化は、方針として矛盾しておりませんか。第五次総合計画の46ページの地域医療の充実の課題に、産科の医師が不足している云々と言葉のお示しがあります。

3年も経っていますが、全く進展がないことの言いわけのような御答弁に聞こえましたが、お産をする方々の側からいえば、医師と助産師では違いますし、高齢出産が増えている現状では、なおさら医師がいる安心な病院で産みたいと願うのは心情であると考えます。

先月の平成29年2月17日に開催されました、県議会定例会で、杉本透議員が、代表質問の中で、県立病院機構の目指す方向性についての質問をTVKで放映されましたのを見ました。その中で黒岩知事は、高度専門医療の提供と地域の支援は県立病院機構の根幹をなす基本的な役割であり、あり方検討会を立ち上げ、地域とともに考え、信頼や理解を得られるよう意見を伺っていくと御答弁されておりました。

10年前にも、足柄上病院の産科に同じような危機があったと聞いてございます。そのときに、5町の首長の代表が神奈川県知事に直談判をされて、状況を改善されたという実際の事例があると聞いております。今こそ、そのチャンスであり、府川町長は4町の首長と強い連携をお取りになり、行動していただきたいと願いますが、御決意を伺いたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今、下山議員が、県会議員の方の質疑の中の話が出ましたが、実際、その話は、私だけではなくて、上郡5町全てそういう情報の中で、今、進めております。

昨年のときに、別の県会議員の方がこの上病院のあり方について、質疑をして、知事があり方協議会をつくって、意見を聞くという話の中で、それが全然進んでいないという中で、杉本議員が改めて再質問した中で、そういう方向で進めるということの中で、今、上郡5町の中で県職員が見えられまして、あり方協議会について協議をし、それをきちんと立ち上げてやっていくという中で、そういう形が4月からでき上がりますので、今、上郡町村会は、松田町の本山町長がやっていますので、本山町長を筆頭に、それは上郡がまとまって、きちんと産科だけではなくて、上病院の医療のあり方について、全体について、大変重要な中核病院だという認識のもとで、5町が歩調をきちんとあわせて、知事、また県に対して意見を言っていくと今進んでおりますので、そういう状況の中で、開成町としても、子育て支援を充実をさせ、子どもを安心して産む場所の提供というのは大変重要なことで認識しておりますので、上病院の産科も含めて、上病院のあり方について、今後ともきちんと県に対して意見を、上病院がまとまって進めていけるようにリードもしていきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○ 7 番（下山千津子）

私は世の中は熱意と情熱でつくられていると信じております。若い世代の方々に移り住んでいただきたいと常に町長はおっしゃっております。近くに産科の病院があるとか、安心して産み育てる環境をつくることへの情熱をお持ちになり、今後ともぜひ、町民の幸せのために、開成町の未来のために、府川町長がリーダーシップを強力に発揮されることを期待しまして、質問を終わります。

○議長（茅沼隆文）

これで下山議員の一般質問を終了いたします。